[論文]

――音頭のメディア効果―東京音頭の創出と影響

<目次>

はじめに

東京行進曲への非難

一丸の内音頭と東京音頭

四 さくら音頭合戦と音頭の増加 東京祭 ―もうひとつの東京音頭―

五 選挙音頭の創作意義四 さくら音頭合戦と音頭の

おわりに

(要旨)

振興に大きな影響力があった。そのためレコード各社は については、 忌避された。 作られるようになった。本稿では、その理由を昭和七年 のような立場とは異なっていた。音頭は、経済および地域の 論争から明らかにした。だが、「丸の内音頭」や「東京音頭 からの批判が少なくなかった。 レコード産業が生み出す流行歌に対しては、文学界や教育界 の内音頭」、翌八年の「東京音頭」 初年にレコード産業が発展すると、数多くの新民謡 教育現場からは批判的な見方も出たが、流 そのことは昭和四年の「東京行進曲」をめぐる を展開し、 全国各地では音頭が急増した。 またラジオ放送でも流行歌は の創出過程から検討した。 行歌

刑部芳則

らかにした。

「選挙音頭」の作製が求められたことを明れるのではなく、「選挙音頭」の作製が求められたことを明まが存在していたため、内務省のレコード検閲として敵視さけた「思想善導」という意味も含まれていた。このような意にとが可能であった。また音頭には経済および地域振興を企図するとと提携している。音頭はヒットの有無にかかわらず、メディンと提携している。音頭はヒットの有無にかかわらず、メディンと提携している。音頭はヒットの有無にかかわらず、メディンと提携している。音頭社をはじめ、映画会社・劇場・百貨店ないにした。

はじめに

現在でも「東京音頭」は夏の盆踊りの定番となっているが、現在でも「東京音頭」は現の公話といっては意外とそれがいつどのような経緯で作られたのかについては意外ととも多いが、「東京音頭」は昭和初年に発展したレコード産業によって作られた新民謡と呼ばれるものであり、それ以前業によって作られた新民謡と呼ばれるものであり、それ以前はほとんどない。また日本近代史においても新民謡は等別とされてきた。

いる。 田 それらが誕生した当時の時代背景と重ねて考察しているとこ 紹介するだけでなく、社会不況や大東京の誕生などという、 法で「東京音頭」と「さくら音頭」についても言及した。上 至るまでの「歌謡曲」に込められた心情を読み取るという手 している。また中野敏男氏は、 京音頭」についても、 氏の研究は、中山作品の楽曲分析による重要な成果といえ また中野氏の研究は、「東京音頭」や「さくら音頭」を 単なる「昭和流行歌史」と呼ばれる書籍類と異なって 学校の音楽教育で排除された「東京行進 「建国音頭」となる過程を検討した。そして「東 | 究状況のなかで上 学校外の音楽教育としての意味を見出 関東大震災から太平洋戦 田誠二氏は中山 0 0)

劇場や百貨店などで披露するなどの大宣伝を行ったところに 行進曲」、「丸の内音頭」、「さくら音頭」についても、 差異などについては検討の余地が残されている。 究する必要性がある。そして本論で検討対象とした「東京祭」、 運用され、影響を与えたのかという具体的な実態について研 のような人たちによって作り出され、それが当時いかにして 選挙音頭」については、管見の限り取り上げた研究がない。 だが、 流行歌と新民謡は同じと考えればよいのか。 れるものであり、 レコード産業が生み出す新民謡が従来の民謡と大きく違う ヒットの有無にかかわらず、 これらの宣伝方法は、 新聞社や映画会社などのメディアと提携し、さらに大 「東京音 は大ヒットしても地域振興に繋がらないが、 頭 その後の流行歌にも散見される。それで 0) 創出と影響や、 いわゆるメディアイベントと呼 その効果を企図することが 民謡と流 答えは否であ また「東京 行歌との 実際ど

できる。

持つ意味から、 さらに「東京音頭」 京祭」の作製経緯に触れ、新民謡が大宣伝を行う意味を探る。 過程を描く。 が創出され、それが「東京音頭」となってヒットするまでの の流行歌の置かれた立場を明らかにする。次に「丸の内音頭 および作曲家による「東京行進曲」に対する評価から、 たことが理解できるだろう。まず「東京音頭」と同じ作詞家 る音頭のメディア効果と、それが地域振興に影響を与えて 流行歌のような一過性の流行によるものであったのかを考え かを考証する。 そこで本稿では新民謡 田を探る。 そして最後に内務省の後援で作製された「選挙音頭」 全国各地に増加する新民謡について検討し、 流行歌に比べて新民謡は批判の対象とならなかった また「東京音頭」と軌を一にして発売された「東 新民謡が流行歌のような非難を受けなかった なぜ昭 その考証のなかからは、 の影響によって加熱する「さくら音頭合 和初期に集中して新民謡が創出され の代表といえる「 東京音 レコード産業によ それは

東京行進曲への非難

同名小説を日活が映画化したものである。この小説 による日活映画 声楽家出身の佐藤千夜子が歌う 東京行 (画に続いて作製されたのが、 進曲 九二九 東京行進曲」 (作詞西条八十、 『キング』に連載していた菊池寛の が公開された。 監督溝口健二、 作曲 東京行進曲」 六月にビクター 中 山晋平) これは講談社 主演夏 の人気に であっ ・が発売 沠

歌い出しの て書いたものであり、震災から復興に向けて変わりゆく東京(一九二三)九月一日の関東大震災で失われた銀座の柳を思っ る新宿あの武蔵野の、月もデパートの屋根に出る」である。 せうかお茶のみませうか、いつそ小田急で逃げませうか、変 地下鉄私はバスよ、 あめ」、「広い東京恋故せまい、 ヅでをどつてリキユルで更けて、 の情景を描写している。 「昔恋しい銀座の柳」とは、 恋のストツプま、ならぬ」、「シネマ見ま いきな浅草忍び逢い、 四番のうち一番 仇な年増を誰が知ろ、 あけりやダンサアのなみだ 西条が大正十二年 あなた

西条によれば、「自分の観た近代東京の単なる戯画化」と 西条によれば、「自分の観た近代東京の単なる戯画化」と 支持されない詩の無意味なことを主張した。 西条によれば、「自分の観た近代東京の単なる戯画化」と を批判している。ラジオ放送で批判を知った西条は、公開状 を記述する。ことを主張した。

また西洋の音楽から鑑みても、流行歌は低俗なものであり、各者とも西条を支持せず、我国の歴史から音楽を考えても、詞や作曲も行う音楽評論家の堀内敬三によって展開された。廃頽性」という項目で、詩人の川路柳虹および中野重治、作魔者の議論に対する賛否は、読売新聞紙上の「流行歌曲の両者の議論に対する賛否は、読売新聞紙上の「流行歌曲の

対象となったことが分かる。

対象となったことが分かる。

があるものもあるかと軽蔑した」と書いていたが、その意見に詩人の白鳥省吾は「反省を全くせずこれを時代相の俗悪にであるものもあるかと軽蔑した」と書いていたが、その意見た。また詩人の室生犀星は報知新聞紙上で「かうも詩を弄んた。また詩人の室生犀星は報知新聞紙上で「かうも詩を弄んた。また詩人の室生犀星は報知新聞紙上で「からも詩を弄んだ。また詩人の室生犀星は報知新聞紙上で「からも詩を弄ん

た小学唱歌本の改訂が決まり、 六月二十三日から六日間、 て欲しいと述べている。東京市の淡路小放歌する登下校中の学生を見つけたら、 東京市の 教育局は、 ドの発売方の禁止を陳情する」ことを協議している。婦人団体は十四日に商工奨励館で「俗悪歌詞の禁止、 化総動員」を提唱する大演説会を開き、これに参加する全市 教育委員会は、日比谷公会堂で「俗悪な流行歌征伐」 に対する評価は低かった。 大衆からは流行歌として認識された。 がって、 復興の歌ではなかった点には留意しなければならない。 たくなな」文部省唱歌よりも「歌ひ易い」からだと判断した。 |逐される事にならうと」教育関係者は期待した。||小学唱歌本の改訂が決まり、これで「俗悪な流行| 東京行進曲」は、 い歌の流行」を「小学校庭から駆逐」するため、 玉 レコードレーベルは [民の歌」を公募して小学唱歌の見直しを図る。 また 石堀青山 小学児童が流行歌を放歌する事由を、「無味でか 「正しい音楽」で「俗歌退治」を試みる。 明治四十年(一九〇七)から使用されてき 小学校長は、 小説および 東京市の淡路小学校では、 昭和四年十月二十一日、 市民夜間音楽講習会を開催し、 「映画小唄」と記されて 巡査の力を借りて、 映画を意識 当時の教育者の 禁止するよう取締 して 昭和五. 流行歌を 東京市の く おり。) 、 東京市 レコー 流行 教

限られる。だが、二村の独唱については、前日になって放送村定一が独唱したのと、十月一日に管弦楽が演奏したときに 判断したことによる。 予定を中止している。 のできる「番組確定表 小田急電鉄で駆け落ちするという詞の内容が不謹慎であると いくと、「東京行進曲」 新聞や雑誌とは異なる新しいメディアとして注目され NHK放送博物館には当時の放送内容を知ること ラジオ放送で 一日に本放送を開始したラジオ放 その理由は、 の放送は、 が現存する。 「東京行進曲 昭和四年六月十五 男女が浅草で逢引きし、 年間日々のそれを見て が流れるのは 日に二 送

俗なものと見なされた。

じ西条と中山のコンビで、声楽家出身の四家文子が歌った。 東京復興に相応しく、「植ゑてうれしい、 山晋平)が発売されている。 :が復活した銀座の模様が描かれている。ラジオで「銀座の 関東大震災から八年を経た昭和七年に東京復興 同年には、 座うれしや、 うすみどり、 流行歌 「恋はくれなゐ、 柳が招く、 「銀座の柳」 吹けよ春風、 作詞作曲は「東京行進曲 まねく昭和の、 柳は緑、 (作詞西条八十、 紅傘日傘、 銀座の柳、 染める都 人通り」と、 今日もくる は実現し 江戸の 」と同 中

> トは、 かった。その理由には「東京行進曲」が東京復興の歌ではな と同じ年に作製された「丸の内音頭」に対する反応は違った なった。 が強かったことが考えられる。一方で「東京行進曲」の 変化を描写していたが、文学界や教育界からは歓迎されな 震災後の東京復興に向けた「東京」から「大東京」への風俗 者は一回しか流れていない。とくに「東京行進曲」 反響も大きかったのである。 小説および映画の影響を受けて作製された流行歌の要素 コード会社独自の宣伝力によって「東京行進曲 同年十一月五日の レコードメディアの影響力の大きさを示唆することと 影響力があるため「東京行進曲_ はヒット盤となったが、ラジオでは前者は三 」は流れるものの、「銀座の柳」は選曲されなかった。 四家が たのは、 「東京行進曲」とともに歌 三月二十七 「大東京の時間 だが、次章で述べる「銀座の柳 日に 銀座 では久しぶりに に対する批判的 柳復 った一回しかな 興祭」という は関東大 」と「銀 大ヒッ 回

丸の内音頭と東京音頭

うの を盛り起こしちゃどうか」と、「丸の内音頭」 い」、「なんか人心に一つのショックを与えてですね、 呂で顔を合わせたところ、 があるんだけれども、 組合員である「更科」 小坂によれば「当時は、 内飲食業組合に所属する日比谷「松本楼」 「都亭」の岩佐善三郎、 「地方ではね、 の藤村源三郎、「富可 都会には盆踊りっていうのはな 非常な緊縮政策で不景気の風 「並木」の森平四 よく盆踊 の企 郎 0) 一画を提 りってい 小坂光雄 の井上 雰囲気 朝風

ルピスの社長三島海雲を介して西条八十を知っていた。また多くの人を集めようとの狙いがあった。右のうち井上は、カ を吹きとばすようなことはないか」と相談していたという。 柳界出身の藤本二三吉(当時は葭町二三吉)と、民謡歌手の 頭物とあって声楽家ではなく、 なった岡は、 部長の岡庄五に音頭の作製を依頼した。この企画に乗り気と められた。このような流れから小坂と藤村は、ビクター文芸 相談したところ「それならばビクターにお頼みなさい」と勧 藤村の娘が舞踊家の花柳寿美の内弟子であり、 とりわけ彼らが経営する店のある有楽町から日比 · 作詞を西条八十、 の間 では 作曲を中山晋平と決めた。音 日本橋葭町の芸者であった花 東京になんとか不景 済振興を企図したもので 藤村が彼女に

と燕の、雁と燕の、上り下り」となる。東におまへは、数寄屋橋」、「おらが丸之内、 ヤットナソレヨイヨイヨイ、〈~」(以下囃子略)、「揃ふた をどりやこころも、ソイ、をどりやこころも、丸の内、 ば、「ハア踊りをどるなら、 や上野などには触れず、日比谷を中心とした丸の内界隈に 揃ふたよ、踊子の手ぶり、 っているのが特徴である。 ふた」、「大手うれしく、 全十一番(レコードでは全九番) 顔三宅坂、ほんにおまへは、ほん ビルの窓ほど、ビルの窓ほどよう まるくなつて踊れ、ヨイくく、 のうち主な歌詞を挙げれ 東京のなかでも銀 東京の波 サテ、 雁

三島一声がそれぞれ吹き込んだ。

口に許可され、同月十五日から二十日までの開催が決まっり許可願いを提出した。これは昭和七年(一九三二)八月六ぬ任した藤村源三郎が、警視庁保安部に日比谷公園での盆踊(こうして「丸の内音頭」が仕上がると、丸の内音頭会長に

八月十八日のラジオ放送で初めて全国に流れた。え用意すれば誰でも踊りに参加できた。「丸の内音頭」は、内音頭踊り」は、午後七時から十時までとし、揃いの浴衣さた。丸の内飲食店組合の主催で開かれた日比谷公園の「丸の

翌年も昭和八年七月二十一日から一週間、 気の高さが見て取れる。 謡をどり大会」が開かれたが、そこには丸の内音頭会による 凉を追ひがてら集まつた丸の内人士の胸もすがく~しい」と 報じる新聞記事によれば、 されている。 いう。そして八月十九日、日比谷新音楽堂で都新聞主催の「民 一年の間で千五百名に増えているから、「丸の内音頭」の人「丸の内音頭」が入っていた。丸の内音頭会の会員数は僅か 「二階で踊るお下げ乙女の振袖が渡る凉風にヒラリと舞へば、 踊る時間を多くした。「丸の内音頭踊り」を「大賑ひ」と 内音頭踊り」は好評のうちに幕を閉じたようで 開催時刻を午後六時から十時までと、 広場中央には三階建の櫓を造り、 日比谷公園 前年より で開

内容も「丸の内」界隈に限られていた。それに対して企画盤 「丸の内音頭」の人気を感じたビクターは、 勝太郎と、三島一声が吹き込んだ。 東京の繁華街を描写したものとなった。 「東京音頭」は、全国のレコード店で販売され アに移籍した二三吉に代わって葭町の芸者出身である小 一の中山晋平は「丸の内音頭」と同じであるが、 行させるため、 依頼盤の「丸の内音頭」 昭和八年七月「東京音頭」と改題して発 は販売枚数が少なく、 作詞の西条八十 それを全国 歌はコ 詞 0)内容 的

テ、ヤートナ、ソレヨイヨイヨイ、~~」(以下囃子略)、ョイト東京音頭、ヨイ~~、花の都の、花の都の真中で、全十番のうち主な歌詞を挙げれば、「ハア踊り踊るなら、

である。「丸の内音頭」の丸の内界隈を残し や上野と範囲が広がっているのが分かる。 花は上 芒の都、 返して寄せる、 心の契り、 今はネオンの、今はネオンの灯の都」、「寄 月は隅田 結 東京繁盛の、東京繁盛の人の波 ぶ都 0 0 結ぶ都 力は隅 の二重 田

進曲 容されたと考えられる。 とって「東京音頭」は東京復興および経済振興の歌として受 う「東京繁盛の人の波 前にして発売されたのが「 て登場したのが「丸の内音頭」であり、 三十五区に拡大編成され、 京繁盛の人の波」というところではないか。これは を短い字数のなかに上手く入れているが、注目すべきは 田区を中心として再生したのである。 西条は「花は上野」や「柳は銀座」など、東京の見どころ 二位の都市となった。関東大震災で壊滅した東京は、千代 や「銀座の柳」にはなかった詞である。昭和七年十月 東京市は五郡八十二町村を合併し、従来の十五区から 」に相応しく、 人口五百二十八万人を有する世界 東京音頭」 その時期と軌を一にし 震災を経験した人々に であった。その詞 新市制から約一年を 「東京行 でい

レコード検閲を担当した内務省警保局の記録によれば、十万をの背景にはビクターの宣伝運動も少なくなかった。ビクをの背景にはビクターの宣伝運動も少なくなかった。ビクをの背景にはビクターの宣伝運動も少なくなかった。ビクスの背景にはビクターの宣伝運動も少なくなかった。ビクスの背景にはビクターの宣伝運動も少なくなかった。ビクスの背景にはビクターの宣伝運動も少なくなかった。ビクスの背景にはビクターの宣伝運動も少なくなかった。ビクスの背景にはビクターの宣伝運動も少なくなかった。ビクスの背景にはビクターの宣伝運動も少なくなかった。ビクスの背景にはビクターの宣伝運動も少なくなかった。ビクスの背景にはビクターの宣伝運動も少なくなかった。ビクスの背景に関系で表している。

权以上売れたことに間違いはない。

金踊りの時期を過ぎて、秋祭りを迎えてからも「東京音頭」 の人気は衰えなかった。昭和八年十月二日の御会式では、池の人気は衰えなかった。昭和八年十月二日の御会式では、池に下野されて没落状態となつた。今まで盆踊の存在しなかつた年夏は別府でも踊られ、房州勝浦方面は古い盆踊が、これに年夏は別府でも踊られ、房州勝浦方面は古い盆踊が、これに上倒されて没落状態となつた。今まで盆踊の存在しなかつた土地も、忽ち東京音頭で踊の輪が立つた」と、地方の古くかも、忽ち東京音頭で踊の輪が立つた」と、地方の古くかも、忽ち東京音頭で踊の輪が立つた」と、地方の古くからの民謡をも凌駕する勢いであった。

囲気が整っていた。 校や女学校に宣伝し、 るいは小学生が流行を左右している」と判断し、まずは小学 内音頭」を紹介し、 江藤は、 の内音頭」を知り、それを地元で売り回って好成績を収めた。 により、 窓会など、人が集まる所で売り込んだ。このような販売戦略 の他、海水浴、お盆、 別府のレコード店主江藤豊南は、昭和七年の夏に東京で「丸 ベートーベンやショパンを買いに来た客にも 別府では翌年の「東京音頭」 踊り方を教えたという。 納涼会、 学校から家庭へと浸透させている。 博覧会、 の流行を受容できる雰 運動会、学芸会、 そして「女性あ 「丸の そ

し、見物は三千人にも及んでゐるといふ人気」 をしている。この翌日からは日比谷公園で恒例 が集まり、 企画者である井上、岩佐をはじめ、 内音頭」については、 踊り」が行われたが、 昭和九年八月十一日には、 都新聞主催の 「揃ひの浴衣の踊子五、六百名が参加 「全国を風靡した東京音頭の本家で 「東京新音頭」について打ち合わせ 日比谷松本楼に 各音頭会代表者十二名 であった。「丸 「丸の内音 の「丸の内音

ありながら、聊か庇を貸て母屋をとられた形となつたので、 ありながら、聊か庇を貸て母屋をとられた形となつたので、 ありながら、聊か庇を貸て母屋をとられた形となったので、 ありながら、聊か庇を貸て母屋をとられた形となったので、 まさに「丸の内音頭」「神田音頭」「丸の内音頭」「深川音頭」「目に日比谷新音楽堂で開かれた「東京新音頭」「深川音頭」「目による「浜町音頭」「神田音頭」「丸の内音頭」「東京おまざに「丸の内音頭」にもとづく「東京音頭」では、六団体 まざに「丸の内音頭」にもとづく「東京音頭」では、六団体 まざに「丸の内音頭」にもとづく「東京音頭」では、六団体 まざに「丸の内音頭」にもとづく「東京新音頭」では、六団体 まざに「丸の内音頭」にもとづく「東京音頭」では、六団体 まざに「丸の内音頭」にもとづく「東京音頭」では、六団体 まざに「丸の内音頭」にもとづく「東京音頭」では、六団体 まざに「丸の内音頭」にもとづく「東京音頭」では、六団体 まざに「丸の内音頭」にもとづく「東京音頭」では、六団体 は「この音頭が揃い手拭、揃い浴衣ではじめて踊られたあの 日比谷公園のすずしい月の夜を、わたしは永く忘れないであ ろう」と述べている。

可波の阿呆踊のようなものを書いてみたい」と思ったと回想阿波の阿呆踊のようなものを書いてみたい」と思ったと回想くなら、ひとつ東京全市を賑やかに踊り狂わせる、たとえば楽と高揚」を与えていることを痛感した西条は、「どうせ書はなかったか。震災の夜、上野公園で「俗曲」が避難民に「慰彼は、この夜の模様を関東大震災の一夜と重ねていたのでする。

として作者の頭脳に残るであろう」と断言する。 念願のひとつだった、 は似て非なるものであった。 は大東京の風俗を描写する「東京行進曲」 の人々の「慰楽と高揚」という要素が含まれていた。この点 わたしの書いたあまたの歌謡の中でもっとも印象ふかいもの から復興する東京の経済振興の目的と、 『東京音頭』でうれしく果たされた。この歌はおそらく、 「東京音頭」には、 生れの東京に盆踊をつくることは、こ したがって、 丸 の内飲食業組合が期待する震 | や「銀座の柳」と 西条は 西条が願った東京 「わたしの

意識を感じさせたと考えられる。そのように考えると、第四「東京音頭」は、多くの人々に東京復興と経済振興という

できるのである。 凌駕し、類似の新民謡が創出されることとなった意味も理解章で述べる地方で「東京音頭」が地元の古くからの民謡をも

東京祭 ―もうひとつの東京音頭―

コロムビアレコードから発売することも決定した。気鋭の作曲家古賀政男に依頼し、彼が専属契約を結んでい 堀内敬三が務めた。七月二日、一等に当選したのは、 家の西条八十、作曲家の山田耕筰と佐々紅華、 企画したものであった。六月二十六日の締切日までには、 興による大東京の誕生を記念すべき歌として読売新聞社 行った。「東京祭」は単なる「流行小唄」ではなく、 大学で西条に師事した門田ゆたかであった。作曲は当時新進 の現実相を織り込んだ流行小唄 売新聞社は「大東京一周年を記念するために、 万五千三百四十五編の作詞が寄せられた。審査員は、 というのがある。 頭 」と同時期に発売された「流 昭和八年 (一九三三) 六月二十日、 『東京祭』の懸賞募集」を 行小唄」に 音楽評論家の モダン東京 早稲田 東京復

本」と評価している。 門田が選ばれたのは西条の贔屓によるものではなく、山田門田が選ばれたのは西条の贔屓によるものではなく、山田の詞に対して「大東京の伝統と、現在のめまぐるしは、門田の詞に対して「大東京の伝統と、現在のめまぐるしは、門田の詞に対して「大東京の伝統と、現在のめまぐるしば、門田が選ばれたのは西条の贔屓によるものではなく、山田門田が選ばれたのは西条の贔屓によるものではなく、山田

「考委員の満場一致で選ばれた門田の「東京祭」は、「恋

場の灯、 歌った「東京ラプソディー」(テイチクレコード発売) 場の灯、大学ボーイのおけさぶし」、「恋ぢや急きやるな、クシイの波が、寄せて返して新宿暮れる、暮れてなまめく 曲 詞で大ヒットすることになる。 で作詞家として評価された門田は、 て日本の天照す」という四節から成る。ちなみに「東京祭 も古賀であった。 七つの橋で、 収ふけの スクラム拱んで、 花の昭和で手と手を結ぶ、 下鉄 7月は、 寄せて返して新宿暮れる、暮れてなまめく酒 ぬけて、 泣いて君待つ女もあろ」、「あだし仇浪々 どこか似てます、 逢ひに来ました、 行けばネオンの花ざかり」、 偶然の一致とはいえ、この作 この三年後に藤山 東京祭は七色花火、 姉御の櫛に、 座 郎が の作 燃え 環

勢いに乗っていた古賀の作曲は早かった。発表から四日後 勢いに乗っていた古賀の作曲は早かった。発表から四日後 の七月六日には「東京祭」の作曲完成が報じられている。その七月六日には「東京祭」の作曲完成が僕の感覚にピンと来て、 の記事で古賀は、第三節の「雰囲気が僕の感覚にピンと来て、 の記事で古賀は、第三節の「雰囲気が僕の感覚にピンと来て、 の記事で古賀は、第三節の「雰囲気が僕の感覚にピンと来て、 の記事でおさいた。 の記事でおり、第三節の「雰囲気が僕の感覚にピンと来て、 の記事でおり、第三節の「雰囲気が僕の感覚にピンと来て、 の記事でおり、第三節の「雰囲気が僕の感覚にピンと来て、 の記事でおり、第三節の「雰囲気が僕の感覚にピンと来て、 の記事でおり、第三節の「雰囲気が僕の感覚にピンと来て、 の記事でおり、第三節の「雰囲気が僕の感覚にピンと来て、 の記事でおり、第三節の「雰囲気が関ロして、 のといる。そ

名が揃いの浴衣で踊るという催しであった。この前日には日踊東京祭」として二三吉が歌い、振付師花柳徳太郎の門弟十部構成でコロムビアのジャズと独唱があり、その最後に「舞士川下り大納涼会」の余興として設けられ、午後六時から二で大々的に発表会が開かれた。これは読売新聞社が主催の「富こうして完成した「東京祭」は、七月十二日に両国国技館

交替で続けられた。
で替で続けられた。
本橋の東美クラブに、古賀、二三吉、花柳をはじめ、東京都本橋の東美クラブに、古賀、二三吉、花柳をはじめ、東京都本橋の東美クラブに、古賀、二三吉、花柳をはじめ、東京都

のオールトーキーとしては二作目となった。 映画化の挨拶として、女優の夏川静江 で二三吉の「東京祭」が、 二十日に封切りとなった。 東京祭 そして八月十九日の両国国技館の大納涼会には、「 キーは、新しい東京の姿を見せるに相応しい手法といえ 三両「東京祭」は七月二十六日に撮影が開始され、 男優の鈴木伝明が起用された。無声映画でない最新の 映画化は七月十四日には決定しており、 が放送された。 この間の八月三十日にはJOAK 映画封切後の十月三日には が登場してい 出演は夏川の他 映画会社日 映 九月 画 活

なかに大東京の発展の意味が込められていることはいうまで 京一周年の記念歌として作製された「東京祭」 吉の代表曲にもならなかった。 にもかかわらずヒットはせず、古賀政男・松平晃・藤本二三 であるトーキーとタイアップした。さらにラジオ放送に加え、 ある新聞社が企画し、それに昭和初年に登場した新メディア 両国国技館での納涼会でも披露された。だが、大宣伝をした このように「東京祭」は、 ットにつながるという相乗効果を狙っている。 ている点である。 .社と映画会社、さらにラジオおよび大劇場などと連携を レコード販売をレコード会社が単独で行うのではなく、 そのうちのいずれかが注目されれば、 明治時代以来のメディ 皮肉な結果はともかく、 で重視すべき 相乗効果の 大東

述べるように各地の音頭作製販売で用いられるようになる。もない。このような他のメディアと連携する手法は、次章

四 さくら音頭合戦と音頭の増加

「東京音頭」の爆発的ヒットに刺激されたのが、ビクターの「東京音頭」の爆発的ヒットに刺激されたのが、ビクターの「東京音頭」の場合のというとはならなかった。そこでコロムビアは、昭和八年(一九三三)十一月にた。そこでコロムビアは、昭和八年(一九三三)十一月に大阪音頭」(作詞佐藤惣之助、作曲佐々紅華、歌藤本二三吉)を発売する。これは『夕刊大阪新聞』の企画をコロムビアがを発売する。これは『夕刊大阪新聞』の企画をコロムビアがを発売する。これは『夕刊大阪新聞』の企画をコロムビアがを発売する。また「丸の内音頭」を歌った二三吉の「東京音頭」の爆発的ヒットに刺激されたのが、ビクターの「東京音頭」の爆発的ヒットに刺激されたのが、ビクター

た」が、十万枚以上のヒット盤となった。で歌はれたといふ点では東京音頭の足許にも寄りつけなかつ詞だけを変えて使い回したのである。「大阪音頭」は、「世間

異曲を作製する競作となったのである。 異曲を作製する競作となったのである。 という音頭を作れば大ヒットするだろうと予想し、前年から音頭合戦」について述べる。レコード会社各社は、花見から音頭合戦」について述べる。レコード会社各社は、花見加に触れる前に、昭和九年二月から四月にかけて起きた「さ加にかける前に、昭和九年二月から四月にかけて起きた「さんら音頭の増している。

下一キーを作製している。 トーキーを作製している。 トーキーを作製している。 トーキーを作製している。 トーキーを作製している。 トーキーを作製している。 にでする。 にでする。 が、一三の東宝劇場と を見に、声楽家出身の徳山璉が吹き込んだ。ビクの勝太郎と三島に、声楽家出身の徳山璉が吹き込んだ。ビクの勝太郎と三島に、声楽家出身の徳山璉が吹き込んだ。ビクの勝太郎と三島に、声楽家出身の徳山璉が吹き込んだ。ビクの勝太郎と三島に、声楽家出身の徳山連が吹き込んだ。ビクの勝太郎と三島に、声楽家出身の徳山連が吹き込んだ。ビクターは、 を開催した。また小林一三の東宝劇場と でいる。 でいる。

に伊庭は「いいでしょう。それほどおっしゃるなら、やって先生に出馬していただきたいのです」と頼んだという。これに、伊庭の邸宅に佐々をはじめコロムビア幹部たちが来て、が依頼された際に居合わせたコロムビアの作詞家藤浦洸によが依頼された際に居合わせたコロムビアの作詞家藤浦洸によ出身の柳橋歌丸・富勇、赤坂小梅が吹き込んだ。伊庭に作詞出すれに対抗するコロムビアの「さくら音頭」は、かつて西これに対抗するコロムビアの「さくら音頭」は、かつて西

表1 ビクター発売の新民謡音頭一覧

	表1 ビクター発売の新民謡音頭一覧							
	曲名	発売年月	作詞	作曲	歌手	備考		
1	甲州音頭	S.3.8	野口雨情	中山晋平	甲府芸妓連	松竹「希望」		
2	豊川音頭	S.5.6	野口雨情	中山晋平	藤本二三吉	愛知県豊川市の歌		
3	宇治音頭	S.5.8	酒井良夫	中山晋平	藤本二三吉	京都府久世郡宇治町		
4	大浜音頭	S.5.8	河井酔若	藤井清水	小倉旭券梅若	愛知県三河の碧南大浜港の歌		
5	関音頭	S.5.8	野口雨情	藤井清水	小倉旭券梅若	岐阜県関市の歌		
6	南蛮音頭	S.5.9	野口雨情	藤井清水	朝居丸子	山口県宇部市		
7	赤坂音頭	S.5.9	角田重勝	大村能章	根本美津子・赤坂百々菊			
8	田原音頭	S.5.12	酒井良夫	藤井清水	佐藤千夜子・奈良としや			
9	昭和音頭	S.6.3	永田秀次郎	吉田二郎	吉田二郎・根本美津子			
10	花まつり音頭	S.6.6	江崎小秋	藤井清水	徳山連・四家文子			
11	米沢音頭	S.6.6	石倉多異花選	中山晋平	藤本・米沢芸妓連	米沢新聞社特選		
12	高尾音頭	S.6.7	松村義人	香川静江	小唄勝太郎			
13	莊内音頭	S.6.7	諏訪桂山	松平信博	三島一声・小唄	山形荘内地方の歌		
14	笠置音頭	S.6.7	酒井良夫	藤井清水	藤本・小唄	奈良県笠置の歌		
15	挙母音頭	S.6.9	野口雨情	藤井清水	小唄勝太郎			
16	多摩川音頭	S.6.10	松村義人	香川静江	藤本二三吉			
17	日向音頭	S.6.11	野口雨情	藤井清水	小芳	宮崎県延岡市		
18	大垣音頭	S.6.12	野口雨情	藤井清水	小梅			
19	酒田音頭	S.6.12	広瀬充	堀内敬三	四家文子・市丸			
20	日の本音頭	S.6.12	長田幹彦	中山晋平	藤本・三島一声			
21	能代音頭	S.7.1	野口雨情	中山晋平	藤本・赤坂小梅	北羽新報社と播磨時計店募集		
22	丸の内音頭	S.7.8	西条八十	中山晋平	藤本・三島	東京都丸の内町内会の委嘱		
23	白根凧音頭	S.8.6	野口雨情	中山晋平	市丸	新潟県白根市の歌		
24	東京音頭	S.8.7	西条八十	中山晋平	小唄・三島	松竹「東京音頭」		
25	早柄音頭	S.8.8	山下彬麿	松平信博	小唄勝太郎			
26	吉原音頭	S.8.11	長田幹彦	松平信博	三島一声			
27	鹿児島音頭	S.8.11	山下吉二	松平信博	三島一声	鹿児島新聞当選歌		
28	名古屋音頭	S.8.12	長田幹彦	中山晋平	小唄勝太郎	名古屋新聞社案		
29	火の国音頭	S.8.12	坂田正一郎	中山晋平	三島一声	九州新聞社当選歌		
30	憮順音頭	S.8.12	西条八十	中山晋平	小唄勝太郎	満州憮順		
31	寿音頭	S.9.1	西条八十	中山晋平	小唄勝太郎			
32	万歳音頭	S.9.1	佐伯孝夫	中山晋平	三島一声			
33	甲州音頭	S.9.2	千葉冬彦	藤井清水	三島一声	山梨日日新聞社募集一等当選		
34	さくら音頭	S.9.2	佐伯孝夫	中山晋平	徳山連・三島・小唄	P.C.L映画「さくら音頭」		
35	新伊勢音頭	S.9.3	若林貞一	中山晋平	筆香	伊勢新聞社募集一等当選		
36	福井音頭	S.9.4	西条八十	中山晋平	小唄・三島			
37	松原音頭	S.9.4	西条八十・ 江尻梢人	中山晋平	小唄勝太郎	茨城県高萩市の歌		
38	大師音頭	S.9.4	長田幹彦	中山晋平	小唄・三島			
39	いろは音頭	S.9.4	西条八十	中山晋平	平山美代子・高山得子			
40	南部音頭	S.9.4	野口雨情	藤井清水	三島一声	岩手日報社特編		
	長崎音頭	S.9.4	西条八十	中山晋平	小唄勝太郎			
42	火華音頭	S.9.4	藤本浩一	松平信博	徳山連	兵庫県工場課選		
43	京音頭	S.9.5	長田幹彦	中山晋平	小唄・三島	松竹蒲田「祇園囃子」		
44	日満音頭	S.9.5	西条八十	中山晋平	小唄・三島	亜細亜劇協会制定		
45	満州音頭	S.9.5	西条八十	中山晋平	小唄・三島	東京音頭替歌		
46	大漁音頭	S.9.5	西条八十	松平信博	小唄・藤山一郎・徳山			
47	黒船音頭	S.9.6	西条八十	中山晋平	小唄勝太郎			
48	大島音頭	S.9.6	長田幹彦	松平信博	三島一声			
49	新宿音頭	S.9.7	西条八十	中山晋平	小唄勝太郎			
50	別府音頭	S.9.7	西条八十	中山晋平	小唄・島村武男			
51	佐世保音頭	S.9.7	西条八十	中山晋平	市丸・三島			
52	北信濃音頭	S.9.8	時雨音羽	中山晋平	小唄・三島			
	お杉音頭	S.9.8	時雨音羽	中山晋平	小唄・三島	秋田県能代港町能代営林署と木材業		

54	佐賀音頭	S.9.8	長田幹彦	松平信博	筆香	
55	四日市音頭	S.9.9	西条八十	佐々木俊一	小唄・三島	
56	伊賀上野音頭	S.9.9	西条八十	佐々木俊一	三島一声	
57	白浜温泉音頭	S.9.9	壇上明宏、 (補)西条八十	中山晋平	小唄・三島	紀伊新報社募集当選
58	北海道音頭	S.9.10	西条八十	中山晋平	小唄・三島	東京音頭替歌
59	東北音頭	S.9.10	西条八十	中山晋平	小唄・三島	東京音頭替歌
60	東海音頭	S.9.10	西条八十	中山晋平	小唄・三島	東京音頭替歌
61	中国音頭	S.9.10	西条八十	中山晋平	小唄・三島	東京音頭替歌
62	四国音頭	S.9.10	西条八十	中山晋平	小唄・三島	東京音頭替歌
63	九州音頭	S.9.10	西条八十	中山晋平	小唄・三島	東京音頭替歌
64	台湾音頭	S.9.10	西条八十	中山晋平	小唄・三島	東京音頭替歌
65	瀬戸内海音頭	S.9.10	西条八十	中山晋平	小唄・三島	中国民報社編
66	プロペラ音頭	S.9.10	前川真澄	中山晋平	市丸・三島	国立公園熊野協会選定
67	福島音頭	S.9.10	北原白秋	中山晋平	三島一声	福島民報社編
68	朝鮮音頭	S.9.10	西条八十	中山晋平	小唄・三島	東京音頭替歌
69	豊橋音頭	S.9.12	西条八十	中山晋平	小唄勝太郎	
70	蒲郡音頭	S.9.12	西条八十	中山晋平	小唄・三島	
71	北陸音頭	S.9.12	西条八十	中山晋平	小唄・三島	東京音頭替歌
72	有馬音頭	S.10.1	西条八十	中山晋平	小唄・三島	
73	行田音頭	S.10.4	西条八十	中山晋平	小唄・三島	埼玉県行田市の歌
74	若柳音頭	S.10.5	白鳥省吾	佐々木俊一	市丸・三島	
75	軍艦音頭	S.10.7	長田幹彦	鈴木静一	三島一声	
76	アメリカ音頭	S.10.8	西条八十	中山晋平	小唄・三島	アメリカ独立祭
77	羅府音頭	S.10.8	西条八十	中山晋平	小唄・三島	アメリカ独立祭
78	山梨観光音頭	S.10.8	記載なし	坂口五郎	小野巡	甲府観光協会選歌
79	軽井沢音頭	S.10.9	西条八十	中山晋平	小唄勝太郎	
80	富士登山音頭	S.10.9	富原薫	中山晋平	小唄・久富吉晴	
81	新潟みなと音頭	S.10.9	内山松頼	内山松頼	小野巡	新潟観光協会制定
82	流線音頭	S.10.9	佐伯孝夫	中山晋平	小唄・三島	
83	せんきょ音頭 (選挙粛正の歌)	S.10.11	記載なし	中山晋平	小唄・三島・藤山	内務省選挙粛正中央連盟推薦
84	淡路一宮音頭	S.11.2	川路柳紅	中山晋平	市丸・三島	
85	スキー音頭	S.11.3	中村八斗	中山晋平	小唄・三島	高田日報当選歌
86	うかれ音頭	S.11.4	文芸部	佐々木俊一	小唄・市丸・小野・徳山・ 藤山	
87	慶応音頭	S.11.5	松下正二	増永丈夫	藤山・徳	
88	秩父音頭	S.11.7	若杉雄三郎	村越国保編	小野巡	
89	汎太博名古屋音頭	S.12.3	佐伯孝夫	中山晋平	小唄・久富吉晴	新愛知新聞社編
90	能登音頭	S.12.6	高見吉太郎、 (補)若杉雄三郎	細田義勝	小唄・徳山連	
91	神風音頭	S.12.7	飯塚飛雄太郎	中山晋平	市丸・小唄・徳山	「神風」亜欧記録飛行記念
92	万博音頭	S.13.6	藪内喜一郎	細田義勝	小唄・鈴木正夫・篠崎純	日本万国博覧会選
93	愛国音頭	S.13.7	若杉雄三郎	深海善次	市丸・徳山連	
94	大和音頭	S.14.4	記載なし	記載なし	京都祇園甲部芸妓連	
95	太平洋音頭	S.14.8	東辰三	東辰三	小唄・鈴木	
96	初春音頭	S.15.1	宮本吉次	鳴瀬純平	鈴木・山本麗子	
97	舞鶴音頭	S.15.2	渡辺昌太郎	中山晋平	小唄・鈴木	京都府舞鶴市
98	建国音頭	S.15.3	若杉雄三郎	中山晋平	小唄・市丸・楠木繁夫	日本文化中央連盟制定
99	アジア音頭	S.15.5	佐藤惣之助	中山晋平	市丸・三島	
100	産報音頭	S.17.3	成田定義	中山晋平	小唄・一色晧一郎	
101	大漁音頭	S.17.11	佐伯孝夫	佐々木俊一	小唄・鈴木正夫	
102	増産音頭	S.18.5	産業報国会	中山晋平	小唄・浪岡惣一郎・市丸・ 鈴木・山本	朝日入選歌、大日本産業報国会制定

福田俊二・加藤正義編『昭和流行歌総覧―戦前・戦中編―』(柘植書房、1994年)から作成。

表2 コロムビアの新民謡音頭一覧

	Υ		1	7	新氏語音頭一覧	_
	曲名	発売年月	作詞	作曲	歌手	備考
1	川中島音頭	S.4.1	北原白秋	町田嘉章	信州篠ノ井芸妓連中	
2	島田音頭	S.4.10	北原白秋	町田嘉章	島田芸妓連中	
3	沼津音頭	S.4.7			沼津芸妓連中	
4	犬山音頭	S.4.9			犬山花券番相生連	
5	桃太郎音頭	S.4.9			犬山花券番相生連	
6	妙義音頭	S.4.11	久保田宵二	藤井清水	新富町明子	
7	佐原音頭	S.4.11	杵屋佐吉		佐原芸妓連中	
8	半田音頭	S.5.2	井手薫雨	稀音家政二郎	半田芸妓連	
9	浜松音頭	S.5.3		町田嘉章	藤本二三吉	
10	雲仙音頭	S.5.3	西岡水朗	杉山長谷夫	藤本二三吉	
11	多摩川音頭	S.5.4	北原白秋	町田嘉章	藤本二三吉	
12	岡山音頭	S.5.7	早蕨岡主人	杉山長谷夫	奥山貞子	
13	川崎音頭	S.5.7	佐藤惣之助	町田嘉章	章子・銀子	
14	名古屋音頭	S.5.9	関本とめ子	松浦まこと	曽我直子、佐藤貞子	名古屋市電気局募集歌
15	鎌倉音頭	S.5.10	久米正雄	町田嘉章	章子・銀子	
16	越ヶ谷音頭	S.6.1	弘田知秋	町田嘉章	章子・銀子	
17	蒲田音頭	S.6.2	田村西男	町田嘉章	二村定一、章子・銀子	
18	皮町音頭	S.6.2	時雨音羽	杵屋栄蔵	天野喜久代・葭町芸妓連	
19	身延音頭	S.6.4	結城玉容	町田嘉章	二村定一、章子・銀子	
20	隅田音頭	S.6.5	久保田金僊	杵屋佐代	向島芸妓連	
21	養老音頭	S.6.9	岩間純	山崎祐康	朝居丸子	
22	長岡音頭	S.6.9	相馬御風	松井千稔	黒田進、堀江廓繁代	
23	富士川音頭	S.6.10	平賀月兎	平賀月兎	甲府芸妓連	
24	玉淀音頭	S.6.11	金子虹	佐々紅華	朝居丸子	
25	お吉音頭	S.6.12	村松春水	塩井豊	日本橋鶴次	
26	宮崎音頭	S. 6.12	们似任小	恒开豆	万玉、成駒	
27	加賀音頭	S. 6.12	小島三徳	佐々紅華	小芳	北陸毎日新聞募集歌
	富山音頭		松原興史		丸山和歌子	1.12世日利用券朱矾
28 29	三崎音頭	S.7.1 S.7.2	饭原典史 飯塚羚子	高階哲夫 沢田正一	寿才三、丸山	
			+		丸山和歌子	巴工油叶洋人拼蒂 巴工旧印史细强
30	南部火消音頭	S.7.4	佐藤行人	武田忠一郎	<u> </u>	岩手消防議会推薦、岩手県保安課選
31	次郎長音頭	S.7.8	野口雨情	藤井清水	江尻見番芸妓連	服务处。故任规
32	港音頭	S.8.2	懸賞募集歌	藤井吉次郎	三島一声、新橋小多美	懸賞募集歌
33	塩釜音頭	S.8.4	白鳥省吾	大村能章	正木千恵子	.1. 교수 상인 위한 기가 기관 교수.
34	長井音頭	S.8.8	里宇春耕	大村能章	分山田和香	山形新聞当選歌
35	静岡音頭	S.8.10	若杉雄三郎	大村能章	赤坂小梅、淡谷のり子	
	前橋新音頭	S.8.10	村山清益	森儀八郎	赤坂小梅	
37	新門司音頭	S.8.11	門司音頭会員	山田竜太郎	分山田和香	
38	深川音頭	S.8.12	小川花仏	福田蘭童	桜子、淡谷のり子	
39	大阪音頭	S.8.12	佐藤惣之助	佐々紅華	藤本二三吉	
40	神奈川音頭	S.8.12	福岡静思	佐々紅華	藤本二三吉	
41	新潟音頭	S.9.1	相馬泰三	佐々紅華	千代菊・はじめ、藤本	新潟市推薦
42	一宮音頭	S.9.1	稲垣満一郎	早川弥左衛門	中野忠晴	一宮観光協会、中部日本新聞社当選歌
43	昭和音頭	S.9.1	佐藤惣之助	佐々紅華	藤本二三吉	
44	広島音頭	S.9.2	重光毅雄	佐々紅華	藤本二三吉	大毎広島販売所当選歌
45	呉音頭	S.9.2	佐藤惣之助	佐々紅華	赤坂小梅	
46	遠州音頭	S.9.2	若杉雄三郎	佐々紅華	藤本二三吉	駿遠日報社推薦
47	北海音頭	S.9.2	時雨音羽	佐々紅華	藤本、赤坂・筑波一郎	
48	仙台音頭	S.9.2	高橋掬太郎	佐々紅華	藤本二三吉	河北新報推薦
49	宮城音頭	S.9.2	高橋掬太郎	佐々紅華	赤坂・筑波	
50	福島音頭	S.9.2	野村俊夫	佐々紅華	藤本、赤坂・筑波	福島民報推薦
51	山形音頭	S.9.2	吉尾薄鳥	佐々紅華	藤本、赤坂・筑波	山形新聞制定
52	青森港音頭	S.9.2	竹内俊吉	佐々紅華	藤本二三吉	
53	津軽音頭	S.9.2	竹内俊吉	佐々紅華	赤坂・筑波	
54	盛岡音頭	S.9.2	北島喜代志	佐々紅華	藤本二三吉	岩手日報推薦
55	岩手音頭	S.9.2	高橋掬太郎	佐々紅華	赤坂・筑波	
56	新秋田音頭	S.9.2	佐藤惣之助	佐々紅華	藤本、赤坂・筑波	秋田魁新聞推薦
57	奉天音頭	S.9.2	野地耕作	佐々紅華	藤本二三吉	
58	樺太音頭	S.9.3	時雨音羽	佐々紅華	藤本、赤坂・筑波一郎	
59	花見音頭	S.9.3	久保田宵二	大村能章	分山田和香	
UJ		S.9.3	山口充一	佐々紅華	藤本二三吉	台湾日日新報社
60	台湾音頭					

CO.	土油立面	C 0 2	人本治白	什么红杏		
62	大連音頭 さくら音頭	S.9.3 S.9.4	ト蔵諄良 伊庭孝	佐々紅華 佐々紅華	藤本二三吉 柳橋歌丸・富勇、赤坂	松竹「さくら音頭」
64	清水音頭	S.9.4 S.9.4	若杉雄三郎	大村能章	藤本二三吉	清水市保勝会推薦
		S.9.4 S.9.4				
65	尾道音頭		今田瑞穂	佐々紅華	藤本二三吉	大毎尾道通信部、大毎専売所啓文社選
66	横須賀音頭	S.9.5	栗原白也	佐々紅華	藤本二三吉 藤本二三吉	東京日日新聞社当選歌
67	新宿音頭	S.9.5	時雨音羽 北海道金瓢会当	佐々紅華		
68	オタモイ音頭	S.9.6	選歌	佐々紅華	柳橋歌丸、富勇	北海道金瓢会当選歌
69	中津音頭	S.9.6	島田芳文	佐々紅華	藤本二三吉	中津市並中津商工会議所推薦
70	新九州音頭	S.9.6	中村暢	藤井清水	藤本、赤坂	福岡放送局募集当選歌
71	五反田音頭	S.9.6	鶯亭金升	山崎裕康	清香・照葉、六三郎・	
72	水産音頭	S.9.6	野田武資	大村能章	いろは 藤本二三吉	静岡県水産会選歌
73	北見音頭	S.9.6	吉川東洋	大村能章	藤本二三吉	北見物産協会当選歌
74	凱旋音頭	S.9.7	佐藤惣之助	佐々紅華	赤坂・筑波	1. 元初座 防云 三 医叭
75	朝鮮音頭	S.9.7	斎藤寿賀	佐々紅華	赤坂・筑波	
76	竜首山音頭	S.9.7	 	村岡楽童	藤本二三吉	
77	浅虫音頭	S.9.7	高橋掬太郎	大村能章	赤坂・伊藤久男	
	深川音頭	S.9.7	小川花仏	青木幸彦	藤本、桜子・筑波	
78 79	信濃音頭	S.9.7 S.9.7	大船渡	大村能章	藤本、分山田・伊藤	
80	栗津音頭	S.9.7 S.9.8	若杉雄三郎	大村能章	赤坂、分山田・伊藤	
	金沢音頭		右杉雄二郎 若杉雄三郎	大村能章		
81		S.9.8	上田忠勇		藤本・伊藤 赤坂・伊藤	
82	釜山音頭	S.9.8 S.9.8		佐々紅華		
83	伊豆音頭 新伊勢音頭	S.9.8 S.9.9	若杉雄三郎 野口雨情	大村能章 藤井清水	藤本・伊藤 赤坂・中野、藤本	 勢州毎日新聞社制定
04	利伊劳日职	3.9.9	馬関亮、	除汁佰小	小奴 中町、籐平	
85	新江州音頭	S.9.9	馬恩売、 西堀弥一郎	須川政太郎	勅使河原一郎、唄小柳	滋賀県社会教育会選歌
86	隠岐音頭	S.9.10	野津無学	佐々紅華	赤坂・伊藤	
87	花連港音頭	S.9.10	瀬野尾寧	岡本新市	藤本二三吉	
88	和倉音頭	S.9.10	若杉雄三郎	大村能章	藤本二三吉	
89	御会式音頭	S.9.11	時雨音羽	大村能章	藤本・伊藤	
90	お神酒音頭	S.9.11	日本酒造会	大村能章	分山田・伊藤	
91	バナナ音頭	S.9.12	台湾芭蕉宣伝委 員会	杉田良造	赤坂、伊藤	
92	岡崎音頭	S.10.2	若杉雄三郎	佐々紅華	分山田和香	
93	大船音頭	S.10.11	堀内敬三	佐々紅華	藤本二三吉	
94	羅津音頭	S.10.12	土岡正次郎	大村能章	赤坂・伊藤	
95	ジャズ音頭	S.11.4	リキー・宮川	仁木他喜雄	リキー・宮川	
96	観光音頭	S.11.5	泉融々	大村能章	音丸・伊藤	国際観光局推薦
97	防空音頭	S.11.8	伊藤和夫	大村能章	音丸	東部防衛司令部推薦
98	青森音頭	S.11.9	岡崎夢雄	大村能章	音丸	青森県実業協会、 東日青森支局共同募集歌
99	宇部南蛮音頭	S.11.12	野口雨情	藤井清水	音丸	
100	木遣音頭	S.12.2	小林一三	須藤五郎	三浦時子	宝塚少女歌舞伎レビュー 「恋に破れたるサムライ」
101	ハタハタ音頭	S.12.2	金子洋文	小松平五郎	音丸	
101	東京愛市音頭	S.12. 4	西条八十	江口夜詩	音丸	東京愛市連盟制定
102	フラ音頭	S.12.4	石橋良雄	岡見如雪	日八 コロムビア・ヒロ・カレッ ヂアンズ	小小久中花皿型儿
104	高尾港まつり音頭	S.12.5	高尾港祭協会選	大村能章	霧島昇・豆千代	高尾港祭協会選
	房総音頭	S.12.6	松本英一	大村能章	音丸	1-7- G-14-71 (M) 3-1-7-4
106	弘前花見音頭	S.12.6	成田弘	大村弦三	音丸・伊藤	
107	興亜音頭	S.15.4	高橋掬太郎	阿部武雄	伊藤・赤坂・豆千代・	
108	静岡復興音頭	S.15.6	東日·静岡市選 定	明本京静	音丸・佐々木章	
109	新体制家庭音頭	S.16.3	サトウハチロー	古賀政男	 霧島・伊藤・松原操・ 菊池章子	
110	蓮萊木造り音頭	S.16.7	佐藤惣之助	古賀政男	菊池・高倉敏	
111	台南音頭	S.16. 9	台南州制定	山县岭川	伊藤・菊池	
	みたから音頭	S.17.9	農山道村文化協会制定	服部良一	霧島・菊池	
112	かちどき音頭	S.19.4	野村俊夫	古関祐而	松原・近江俊郎・佐々木	
	炭鉱音頭	S.20.1	高橋掬太郎	杉山長谷夫	四州 以任政即"在《本	
) (000年) 短田俊子 加速工業	∟ 編 『昭和流行歌総覧─戦前・戦中編─』

[『]オリジナル盤による秘蔵盤 昭和の流行歌』資料編(日本コロムビア、1980年)、福田俊二·加藤正義編『昭和流行歌総覧―戦前・戦中編―』 (柘植書房、1994年)から作成。

ら音頭ゆかた_ 伊勢丹の各ホールで開かれ、三月には浅草公園劇場で「さく が上野松坂屋、 が上演された。その間の二月十七日から「さくら音頭」二月十日から二十七日まで日本劇場で「さくら音頭」 松竹少女歌劇団と提携し、三月二十三日から東京劇場の第五 くら」募集の「さくら音頭踊り」を開催した。三月四日 び高島屋と提携し、二月十四日から二十四日まで「ミス・さ 若松支社主催で「さくら音頭大会」を開催した。 海道へも宣伝を展開し、三月十一日には会津若松の朝 うキャストであった。 力を入れたため、レコード発売は四月と花見の期間であった。 があったからに他ならない。 日活の映画は、 ンさくら音頭 日比谷公会堂で「ミス・さくら決戦技芸大会」 みましょう」と承諾し、さらに佐 子佐伯であったが、 両社と競うポリドールは、日活および日本劇場と提携し、 コロンビア幹部の予想は外れ、 「東京踊り」の主題歌として発表することとした。 ~どどいつ~の調子で書いて下さい」と注文をつけた。 を着た舞踊団が出演した。また日活 その間の二月十七日から「さくら音頭発表会」 「東京祭」と同様に鈴木伝明や夏川静江とい の上映館でもステージ・ショーが行われ 日本橋三越、 さらにポリドールは、 伊庭が承諾したのも西条への対抗 日本橋白木屋、 コロムビアは、 . 々が 「わ 先述のとおり作詞 かりやすい 浅草松屋、 読売新聞社 関東・ 一が行われた。 東北・北 「ニッポ 全七景 宣伝に およ

「レコードとして聴かせるつもりであらうが、調子が堅くそが分からない時に音楽評論家の須永克己は、コロムビア盤をターの「さくら音頭」だけである。まだヒットするかどうかだが、結果的に見ると、十万枚以上を売り上げたのは、ビクコードや太平レコードも独自の「さくら音頭」を発売した。コードや太平レコードも独自の「さくら音頭」を発売した。コードや太平レコードも独自の「さくら音頭」を発売した。

語っている。 うやつはよく出来ていても負けるもんだね」と寂しそうに のである。 た勝太郎と三島の歌唱力は、 して少し沈んで聞こえる難がある」と批評 一音頭が聴くものでなく踊のためであるといふ建前 に万事を終一したビクターが成功である」と評価して 敗軍の将となった伊庭は、 「東京音頭」を作曲した中山の旋律、 あらためて大衆から支持された 藤浦に「レコードとい Ĺ ビ それを歌 クター で はその

の商家の売り出しも大袈裟であつた」と振り返る。の商家の売り出しも大袈裟であつた」と振り返る。の商家の売り出しも大袈裟であつた」と振り返る。の商家の売り出しも大袈裟であつた」と振り返る。の商家の売り出しも大袈裟であつた」と振り返る。の商家の売り出しも大袈裟であつた」と振り返る。の商家の売り出しも大袈裟であつた」と振り返る。の商家の売り出しも大袈裟であつた」と振り返る。の商家の売り出しも大袈裟であつた」と振り返る。の商家の売り出しも大袈裟であつた」と振り返る。の商家の売り出しも大袈裟であつた」と振り返る。

各所に集客させている。 各所に集客させている。 各所に集客させている。 各所に集客させている。 を所に集密に右で述べたとおり、レコード会社はレコードり、全国各地の経済振興ができるという一石二鳥の効果がレコードのヒットだけでなく、花見踊りを開催することによトすると考えたからに他ならない。また「さくら音頭」は、勇力が東京や大阪という地域限定ではないため、全国的にヒッ頭」が東京や大阪という地域限定ではないため、全国的にヒッ頭」が東京や大阪という地域限定ではないため、全国的にヒッカ

名古屋新聞社案、「火の国音頭」は九州新聞社当選歌と、地児島音頭」は鹿児島新聞当選歌、十二月の「名古屋音頭」はると、同年秋ごろから音頭の作製数が多くなる。十一月の「鹿ビクターは、昭和八年七月から「東京音頭」が大ヒットす

られる。 し社を抜くヒットを遂げて音頭に自信を持ったからだと考え あるが、それは「東京音頭」につづけて「さくら音頭」でも あるが、それは「東京音頭」につづけて「さくら音頭」でも からの依頼ではなく、ビクターが独自に作製するものも相当 からの依頼に応じたものであった。音頭の発売数は「さ 方新聞社の依頼に応じたものであった。音頭の発売数は「さ

とより、 京音頭」 にとっても、「東京音頭」の担い手に作ってもらうことを歓 再びヒットを意図したのである。また音頭を受容する地 し、勝太郎と三島が吹き込んでいる。彼らは 湾音頭」 方の名所古跡を入れたほうが受けるのではないかと判断 くら音頭」で成功を収めているため、 したに違いない。 東京音頭」 元の民謡を凌駕していたが、「東京音 東海音頭」「中国音頭」 ビクターが作製する音頭の多くは、 「朝鮮音頭」、十二月の の歌詞を西条が変更したものであった。これらはも 五月の は全 「満州音頭」、十月の「北海道音頭」 国的に大ヒットとなり、 「四国音頭」「九州音頭」「台 「北陸音頭」は、すべて レコード会社としては 頭 「東京音頭」「さ 地 中山晋平が 方の の旋律に各地 盆 ?作曲 りで

で温泉が湧き出た「音頭」の効果に期待していたことがうから、 一で温泉が湧き出たときの事例である。当夜は歓喜のあまり住民たちが「東京音頭」を踊っているが、「芦ノ湖音頭が間に 民たちが「東京音頭」を踊っているが、「芦ノ湖音頭が間に 民たちが「東京音頭」を踊っているが、「芦ノ湖音頭が間に 民たちが「東京音頭」を踊っているが、「芦ノ湖音頭が間に とことは観光明である。当夜は歓喜のあまり住 で温泉が湧き出たときの事例である。当夜は歓喜のあまり住 で温泉が湧き出たときの事例である。当夜は歓喜のあまり住

> 歌手藤本二三吉が担当し、 手は赤坂小梅、 ロムビアの音頭の多くは、「大阪音頭」 「遠州音頭」と「福島音頭」である。「盛岡音 方でコロムビアも「大阪音頭 は福島民報推薦、 は秋田魁日報推薦と、 同月発売の「仙台音頭」は河北日報推薦、「 筑波一郎、 を発売している。 の旋律に詞を変えたのが、昭和九年二月発 「山形音頭」 伊藤久男である 両者を除くと作曲は大村能章、 新聞社と提携していた。 また昭和八年十二月発売 の作曲家佐々紅華と、 は山形新聞制定、「 福 歌

れる」と予想していた。 でも飛出すであろう。 さく〜今から案を練るであろうし」、「それに負けてゐず他社 らく来年の夏はコロムビア其他もビクターと対抗すべく、 かったため、筑波とともに新民謡を数多く吹き込んでいる。 力芸者歌手となった。また伊藤は当時ヒット曲に恵まれ 政男作曲の「ほんとにそうなら」のヒットでコロムビ 太郎の対抗馬と見て間違いない。 の内音頭」を歌ったからであろう。佐々は中山、二三吉は勝 一三吉が起用されているのは、「東京音頭」の源流となる「丸 中したのである。 大村は日本調の流行歌を得意とし、 来年の夏の騒がしさが今から思ひやら それから一年もしないで彼の予想は 舞踊 小梅は昭 家の小寺融吉は、「 和八年に古 アの

も発売される東北の新春は俄然音頭のあらしが押し寄せられていたことがうかがえる。発売前日には「東北六県各地音頭では音頭が歓迎され、コロムビアも売り上げを期待して作っなったが、予約が殺到し「俄然物凄い人気」であった。各県「盛岡音頭」は、岩手県内では一月十日に全国先行発売と

五 選挙音頭の創作意義

伊藤久男と作曲家の古関裕而が登場した。日に岩手県公会堂で「盛岡音頭」の発表会が行われ、歌手の同じような人気があったことは容易に想像できる。一月十六る」とあり、新聞紙面では確認できないものの、盛岡市内と

田大会」でも、市内加盟商店で中元セールが行われている。 の手拭全員であった。一月二十四日から二十六日までの「盆 が配布され、一等は「山形音頭」のレコード五十名、二等 は「山形音頭」発表演奏会の招待券五百名、三等は「山形音頭」 の手拭全員であった。一月二十日の発表演奏会には「山形音頭」 の手拭全員であった。一月二十日の発表演奏会には「山形音頭」 の手拭全員であった。一月二十日の発表演奏会には「山形音頭」 の手拭全員であった。一月二十日の発表演奏会には「山形音頭」 の手拭全員であった。一月二十日日本で隣県の山形市内で この前日の一月十五日から二十五日まで隣県の山形市内で

はいえないだろう。

振興を図る役割を持っていたと考えられる。 ・ は「東京音頭」の流行による人気だけでなく、地元の経済 に、 を政府に提出した。東北六県で発売された音頭は県政に直接 を政府に提出した。東北六県で発売された音頭は県政に直接 を政府に提出した。東北六県で発売された音頭は県政に直接 を政府に提出した。東北六県で発売された音頭は県政に直接 を政府に提出した。東北六県で発売された音頭は県政に直接

> PIA ・)®、記庁で:Work テ頁が女見されこのたでは:児童に踊らせるやう推薦すると云つてゐる程の人気」という かった。 記事もあり、 参加を禁止した。 導している。某小学校の学芸会の演目として「東京音頭 小学生が五百名参加しているのが発覚すると、 是非が論じられ、昭和十年(一九三五)の横浜市の盆踊りに たと弁明したが、教員は「以後踊る人は厳罰にします」と指 父さんやお母さんがラジオ体操のつもりで踊れ」といって ていたため、それを見つけた校長が説教した。 |小学校の運動場で児童たちが「東京音 流行歌と異なり音頭が敵視されたわけでは だが、「松田文相はこれを全国各小学校の 児童たちは「お 市では彼らの 頭 0

を学校教育の場で受容することは難しかったと思われる。 るか否かという点では大きく異なっていた。その意味でいう 歌と大差はなかったといえる。 それを父兄たちが勧めていることに鑑みると、 横浜市で禁止することはなかったであろう。児童たちが踊り、 を図り、 レコード会社が発売する音頭は、 文部大臣の松田源治が音頭 文部省では文部省唱歌の旋律とは大差があるため、 後述する集団の踊りを通して人々を一つに纏めら を推薦したとすれば、 だが、 歌詞の猥雑さを除けば流行 国家にとって地域振興 大衆にとって 頭 ħ

りと判断された作品については、発売禁止・宣伝中止・自主検閲制度を開始した。検閲を通過して発売されてからも難あ務省は、出版警察法の適用範囲をレコードに広げ、発売前の風当たりは強かったに違いない。実際、昭和九年八月から内底の思想を統制および監視していた内務省の盆踊りに対する仮に音頭が全面的に敵視されるものであったとすれば、当

回収などが行われた。

音頭」の製作過程から、その意味を見出すこととする。 で昭和十年に「選挙音頭」が作られている点は注目できる。 で昭和十年に「選挙音頭」が作られている点は注目できる。 となる。その意味でもレコード検閲を管轄する内務省の企画 となる。その意味でもレコード検閲を管轄する内務省の企画 となる。その意味でもレコード検閲を管轄する内務省の企画

行う小説家の長田幹彦、 されたのである。都新聞社は七月二日から「選挙粛正の歌 挙が行われることがあった。選挙を監視する内務省は、 乙の部各一等一名、二等一名、三等十名が選ばれた。 芸部長の小野賢 中の中山は欠席した。 審査委員は、作詞家の西条八十、作曲家の中山晋平、作詞も れている。十五日に東京会館では審査委員会総会が開かれた。 があった。応募者は内地に限らず、朝鮮や満州からも寄せら の募集記事を掲載し、十日の締め切りまでに五千以上の応募 された。「選挙音頭」は、選挙粛正を図る宣伝曲として作製 粛正中央連盟を組織し、 の永田秀次郎、 地方では政治と利益が結びつき、金品授受による不正 内務省地方局行政課長代理の岡田 都新聞社関係者が出席した。これにより甲の部 三郎 同理事の松原一彦、文部省社会教育局長の山 ビクター文芸部長の岡庄五、 彼ら以外にも選挙粛正中央連盟理事長 演劇評論家の伊原敏郎であり、 選挙違反をなくすための方法が模索 局長、 東京放送局文 同部員

集したが、選挙粛正を統一する音頭が分れるのは不都合と感ていた。当初は二種類作製する予定で違った形式で歌詞を募募集歌詞の甲の部は、乙の部の「七七七五」の形式とは違っ

小唄勝太郎・徳山璉・藤山一郎が吹き込んだ。全体で半月かかっている。そして曲が完成すると八月一日、を手掛けた中山晋平も作曲には苦労し、囃子だけで五日間、を手掛けた中山晋平も作曲には苦労し、囃子だけで五日間、を作り、甲乙各三章を前後に置き、四章を二等三等から補っじるようになった。そこで甲一等の歌詞の大意を取って三章

うに、選挙の公平性を促すものとなっている。 「さくら音頭」の勝太郎と徳山に加え、当時人気の高かっ 「さくら音頭」の勝太郎と徳山に加え、当時人気の高かっ 「さくら音頭」の勝太郎と徳山に加え、当時人気の高かっ 「このようにして仕上がった「選挙音頭」の内容は、「ハアー る。このようにして仕上がった「選挙音頭」の内容は、「ハアー る。このようにして仕上がった「選挙音頭」の内容は、「ハアー ない、 で誘をと利権で釣ろと、きめたお方に、この一票」というよ で誘をと利権で釣ろと、きめたお方に、当時人気の高かっ 「さくら音頭」の勝太郎と徳山に加え、当時人気の高かっ 「さくら音頭」の勝太郎と徳山に加え、当時人気の高かっ

を合唱するという宣伝を展開した。 徳山・藤山が歌うなかでは、 会場全員で大合唱という流れであった。もちろん、 第二部では中山晋平が何度も「選挙音頭」 行された。第一部のビクター歌手の流行歌ショーにつづき、 都新聞社主催「日本ビクター実演の夕」と題して大々的に挙 倉栄養化学研究所主催の「米の母の夕」でも「選挙音頭」の 八月九日には中野区役所の後援により、 **|催された「新作漫才コンクール」** 選挙音頭」の完成披露は、八月四日に日比谷新音 :が披露された。さらに二十一日から浅草松竹座で十日間 一の踊り方指導が行われ、十七日に日比谷新音楽堂で片 これであった。もちろん、勝太郎 おてあった。もちろん、勝太郎 でも全員で「選挙音 塔の山公園で「選挙 を指導し、 最後は 楽堂で

本新聞社は「選挙音頭」を普及させるため、八月二十六日 都新聞社は「選挙音頭」を普及させるため、八月二十六日 をのうち一名には勝太郎・藤山・三島一声の肉筆入り扇子と、 そのうち一名には勝太郎・藤山・三島一声の肉筆入り扇子と、 をのうち一名には勝太郎・藤山・三島一声の肉筆入り扇子と、 をのうち一名には勝太郎・藤山・三島一声の肉筆入り扇子と、 をのうち一名には勝太郎・藤山・三島一声の肉筆入り扇子と、 をのうと。

局 要望によって作られたのに対し、「選挙音 どこにあるのかといえば、「丸の内音頭」が大衆の側からの た「丸の内音頭」が日ならずして人気が出たのに対し、大官 下達式に普及させようとした点にある。 伝を行った「選挙音頭」 の狙いを、 新聞社の熱の入れ方がうかがえる。だが、宣伝力がなかっ 内務省および選挙粛正中央連盟の推薦だけあり、 当時の大衆は感じていたように思われ の人気は出なかった。 お仕着せがまし 頭」は官側が上位 両者の差異が 主催 e V

だが、本論の視座からすると、「選挙音頭」がヒットしたたと考えられる。音頭は音楽と舞踊をとおして楽しむことができるの歌」が発売され、レコード販売にはならなかったものの、の歌」が発売され、レコード販売にはならなかったものの、の歌」が発売され、レコード販売にはならなかったものの、を当る。この点に内務省や選挙粛正中央連盟が目をつけたと考えられる。音頭は音楽と舞踊をとおして楽しむことができ、また踊りをとおして精神を一つにすることができるのでき、また踊りをとおして精神を一つにすることができるのでき、また踊りをとおして精神を一つにすることができるのできる。

が挙げられる。英霊の御霊を鎮魂する場で音頭を踊る将士魂まつり盂蘭盆法要」で「丸の内音頭」が行われ により実現は早まる。音頭には人々の思想を良い方向へと導 で音頭が労働歌として使われていたのも、 に「盂蘭盆法要」を行う意味が含まれていた。また農村など 謹慎のように思えるが、そもそも音頭には盆踊りというよう く「思想善導」という効用があったのである。 があった。考えてみれば、 一谷公園で開かれた大東京魂まつり会主催 それに向けて発展を目指すという思想が一つになること 点を象徴する行事としては、 英霊の御霊を鎮魂する場で音頭を踊るのは不 地域振興や経済振興も同じであ 昭 和 八年八月十六日に 心を一つにする狙 「日支事 たこと

たからに他ならない。 あったことが分かる。 を抑止するのではなく、 の各社競争や、 ます拍車を加へることになってゐる」という。 好の手段として音頭を推薦してゐるので、 そこでは「内務省や陸軍省、 想善導」という効力に目をつけていたことは、 ら音頭合戦」を報じた『大阪朝日新聞』の記事から証明される。 .務省をはじめ、陸軍省および海軍省までもが音頭 全国各地に音頭が急増した背景には、 そこには「思想善導」という要素があっ むしろ推薦する上からのお墨付きが 海軍省あたりが、 音頭の普及にます 「さくら音頭 先述の 思想善導の恰 それら 0)

ラジオや映画なども使って大々的に選挙粛正の運動を (表1・2参照)。 1.務省および選挙粛正中央連盟は、 火になっていく。 不正な選挙を抑止することができた。 コロムビアは同 「選挙音頭」はヒットせず、 ビクターは最盛期で昭和九年十月に十一 ビクターは昭和十 十一 年に五曲、 同年を境として音頭 新聞や雑誌をはじ 十二年に七曲しかな 年に五 だが、 曲 宣伝曲 展開

はいったことはいう効果とは対極的であったことはいうまでいた音頭ブームは、「選挙音頭」で失敗した昭和十年におわいた音頭ブームは、「選挙音頭」で失敗した昭和十年におわいた音頭ブームは、「選挙音頭」で失敗した昭和十年におわいた音頭ブームは、「選挙音頭」で失敗した昭和十年におわい、大幅に減少しているのが分かる。「東京音頭」で火がつめ、大幅に減少しているのが分かる。「東京音頭」で火がついた。

おわりに

ないものの、称賛する声も確認できない。 行歌であったため、文学者や教育現場からは批判こそ見られでも西条に対して批判的であった。「銀座の柳」も単なる流作詞家西条八十と演出家伊庭孝との論争に加え、文学界の間(一九二九)に発売された「東京行進曲」も例外ではなく、(一九二九)に発売された「東京行進曲」も例外ではなく、配和初年から隆盛したレコード産業によって創出された昭和初年から隆盛したレコード産業によって創出された

祭」が作られた。人気作曲家の古賀政男を起用した「東京祭」 ・ 大変わり、全国的な大ヒットとなる。教育現場では文部省 ・ 大変わり、全国的な大ヒットとなる。教育現場では文部省 ・ 本るところもあったが、父兄は健康のために推奨したり、文 するところもあったが、父兄は健康のために推奨したり、文 するところもあったが、父兄は健康のため「東京音頭」を抑止 唱歌のような教育音楽ではなかったため「東京音頭」を抑止 には、読売新聞社の主催によりとするなど、流行歌に対する 期間中の日比谷公園は毎晩賑わった。翌年には「東京音頭」 には、読売新聞社の主催により大東京の誕生を祝した「東京経 が作られた。人気作曲家の古賀政男を起用した「東京祭」 ・ 本社に対して丸の内飲食業組合の有力者によって企画され

ていたが、お仕着せがましく上から作ったことによろう。なかった。その要因は、東京の復興を意図した点では共通し宣伝を行った。だが、売り上げは「東京音頭」に遠くおよばは、新聞をはじめ、舞台や映画というメディアと提携して大

音頭をとおして不正な選挙を抑止した。
音頭をとおして不正な選挙を抑止した。
音頭をとおして不正な選挙を抑止した。
音頭をとおして不正な選挙を抑止した。
また「東京音頭」のヒットは、地元の人々を地域活性化にまた「東京音頭」のヒットは、地元の人々を地域活性化にまた「東京音頭」のヒットは、地元の人々を地域活性化にまた「東京音頭」のヒットは、地元の人々を地域活性化にまた「東京音頭」のヒットは、地元の人々を地域活性化にまた「東京音頭」のヒットは、地元の人々を地域活性化にまた「東京音頭」のヒットは、地元の人々を地域活性化に

た。「選挙音頭」がヒットしなかったのを機に、各レコード自主回収を余儀なくされた流行歌と大きく異なる点であっや「銀座の柳」はもとより、昭和九年以降に発売禁止および想善導」という要素が含まれていた。そこが「東京行進曲」音頭には、経済効果を上げる地域振興という点に加え、「思音頭には、経済効果を上げる地域振興という点に加え、「思

頭も流行歌に過ぎなかったといえるかもしれない。会社では積極的に音頭を作らなくなる。その意味でいうと音

の音頭の役割については、今後の課題としたい。

「増産音頭」などの音頭物が再び作られている。戦時下によ「増産音頭」などの音頭物が再び作られている。そのいずれもの作曲が中山晋平、歌が小唄勝太郎というのも偶然ではに「増産音頭」などの音頭物が再び作られている。そのいずによる地域振興および経済振興の効果は、世界における日本による地域振興および経済振興の効果は、世界における日本による地域振興および経済振興の効果は、世界における日本による地域振興および経済振興の効果は、世界における日本による地域振興および経済振興の効果は、世界に対しては、今後の課題としたい。

註

- 一九八一年七月。年九月、同上『民謡―その発生と変遷―』角川選書、年九月、同上『民謡―その発生と変遷―』角川選書、竹内勉『日本の民謡』日本放送出版協会、一九七三(1) 浅野建二『日本の民謡』岩波新書、一九六六年五月、
- 勢音頭をめぐって―」(『哲学』一二八、二〇一二年三月)。(2)濱千代早由美「民謡とメディア―新民謡運動を経た伊
- 七四―一、二〇〇七年三月)。 ―『東京音頭』から『建国音頭』へ―」(『教育学研究』――田誠二「音楽教師から敵視されたメロディの教育化
- ──』NHK出版、二○一二年五月。(4)中野敏男『詩歌と戦争──白秋と民衆、総力戦への「道」
- 一九四一年一月)の同書巻末「代表的流行歌表」には、(5)小川近五郎『流行歌と世相』(日本警察新聞社、

トしたか否かを判断する。と思われる。そこで本論では小川の統計をもとにヒッした小川の統計は、他のどの書籍よりも信頼性が高い知ることはできないが、内務省でレコード検閲を担当知曲目を掲載している。当時のレコードの販売実数を昭和十二年以前は十万枚以上、以後は五万枚以上売れ

- 一五頁。(6)西条八十『西条八十全集』八、国書刊行会、一九九二年、
- (7)「私の昭和史―銀座の柳―」(東京一二チェン、昭和三十九年四月三十日放送)における西条八十の談話。筆者は、「昭和を駆け抜けた一〇一人・パート四」話。筆者は、「昭和を駆け抜けた一〇一人・パート四」話の昭和史―明神であり、新聞の縮刷版で調査するとるのは表示の誤植であり、新聞の縮刷版で調査するとるのは表示の誤植であり、新聞の縮刷版で調査するとるのは表示の誤植であり、新聞の縮刷版で調査するという。 (7)「私の昭和史―銀座の柳―」(東京一二チャンネル、昭
- 本図書センター、一九九七年復刻版、五七頁)。(8)西条八十『唄の自叙伝』生活百科刊行会、一九五六年(日
- (9)(10)『読売新聞』昭和四年八月四日、朝刊。
- (11)同右、八月十日、十三日—十五日、二十日、朝刊。
- 一一四頁。 (12) 白鳥省吾『現代歌謡百話』東宛書房、一九三六年、
- (4)『『『月』「丁月』 片ココニーー・・ 月。(3)ビクターレーベル番号、五○七五五—A、筆者所
- (4)『東京朝日新聞』昭和四年十月十日、夕刊。
- (15) 同右、昭和四年十一月十三日、朝刊。
- (17)「番組確定表」昭和四年六月十五日、十月一日、NHK(16)同右、昭和五年六月二十一日、同六年六月二日、朝刊。

放送博物館所蔵。

- 18 「東京日日新聞」 昭和四年六月十 · 五 日 、 刊
- 伊藤正憲『レコードと共に四十五年 一本クラウン、一九七一年、
- 20
- $\widehat{21}$ 前掲 「番組確定表」昭和七年三月二十七日、十一月五 $\overset{\text{H}}{\circ}$
- ンネル報道部編 踊り 角るなら― -東京音頭大はやり―」(東京一二チャ 『証言私の昭和史』一、学芸書林、
- 和七年八月七日、夕刊) 一九六九年、二三二頁)、店名は『東京朝日新聞』(昭 の記事から採用した。
- $\widehat{23}$ 前掲 『唄の自叙伝』一七三頁
- $\widehat{24}$ 会出版部、 岡庄五『最近に於けるレコード界の趨勢』 一九三六年、四二頁 日本文化協
- $\widehat{25}$ 前掲「踊り踊るなら―東京音頭大はやり―」二三三頁
- 26 前掲『西条八十全集』八、一三一頁
- $\widehat{27}$ 『東京朝日新聞』昭和七年八月七日、 夕刊。
- $\widehat{28}$ 都新 聞』昭和七年八月十六日、 朝 刊 国立国 一会 図 書館
- 昭和七年八月十八日、
- 30 昭和八年七月二十二日、 朝刊。
- 同同同同右右右右 昭和八年八月十二日、 朝刊、 应 Ħ
- 昭和八年八月十九日、
- $\widehat{33}$ $\widehat{32}$ $\widehat{31}$ 『西条八十全集』八、一八五—
- 34 聞 昭和七年十月一日、 朝刊
- 二三五頁。 「踊り踊るなら―東京音頭大はやり―」二三四
- 36 謡詩人』一九三三年十一月、 一九四一年所収、 小寺融吉「東京音頭の大流行」(『歌 一〇七頁)、 同上『郷土舞踊と盆踊 西条八十「私

九六二年、一〇五頁)。 歴書」(『私の履 七 日 本経 済 新 聞

- $\widehat{37}$ はないが、「東京音頭」は確認できる。 『流行歌と世相』には、依頼盤である 元の内音
- 38 "東京朝日新聞』、"読売新聞』昭和八年十月十三 日 朝
- 39 "読売新聞』昭和八年十月二十一日、 朝刊。
- 40 「東京音頭の大流行」一〇七頁。

41

- 団伊玖磨「踊り踊って東京音頭」 二一、日本放送協会、一九八二年、 四八—五〇頁)。 (『歴史へ 0)
- 42 **都新聞』昭和九年八月十二日、** 朝刊。
- $\widehat{43}$ 同右、 昭和九年八月十五日、 朝刊。
- 44 昭和九年八月十八日、
- 45 『唄の自叙伝』一七六頁
- 46 同右、二六—二七頁。
- 47 同右、一八〇頁。
- 48 『読売新聞』昭和八年六月二十日、 朝刊。
- 49 5 51 同右、昭和八年七月二日
- 52 同右、 昭和八年七月六日、 朝刊。
- 53 同右、 昭和八年七月八日、 朝刊。
- 55 54 同右、 昭和八年七月十一日・十三日、 昭和八年七月十二日、 朝
- 昭和八年七月二十日・二十二日、 夕刊、 日

56

- 三日・四 二十八日、 日・五日、 朝刊、二十九日・三十日、 夕刊、八月六日、 八月一 朝刊 ・夕刊、八 日二日
- 同右、 昭和八年八月十九日、 夕刊、一 $\overline{+}$ Ė 朝

月八日、

夕刊。

昭和八年七月十四日・十七日、

58 57

昭和八年八月三十日、朝刊、九月二十六日、夕刊。

- 60 ムビア、二〇〇四年)にも収録されていない。 リーズの『松平晃―サーカスの唄―』 一九九三年)、『藤本二三吉全曲集』一~六(日本コロ 。オリジナル版古賀政男大全集』(九八八年)、SP復刻版による懐かしのメロディーシ |(日本コロムビア、 日 本コ 口 ムビア、
- (62) 高橋掬太郎『流 一九五六年、二三七頁 行歌三代物語』学風 書 院
- 63 行歌表」に「大阪音頭」は掲載されている。 前掲『流行歌と世相』一〇五頁。 同書巻末 「代表的 流
- 64 書館所蔵。 『音楽新聞』 七四号、 一九三四年二月、 国立音楽大学図
- 65 同右、 七一号、 一九三四年一月。
- $\widehat{66}$ 同右、七二号、 一九三四年二月。
- 藤浦洸 一二八一一二九頁。 『なつめろの 人 々』 読売新聞 社、 九七一
- 68 前掲 $\widehat{\underline{64}}_{\circ}$
- 69 前掲 65
- $\widehat{70}$ 前揭 64
- 71 『音楽新聞』七三号、 七五号、 九三四年二月、三月。
- $\widehat{72}$ 『流行歌と世相』の巻末「代表的流行歌表」。
- $\widehat{73}$ 『音楽新聞』七三号。
- $\widehat{74}$ "なつめろの人々』 一二九頁
- 75 『流行歌と世相』一〇六頁。
- $\widehat{76}$ 東京朝日新聞 昭和八年十二月六日、 刊
- 「東京音頭の大流行」一〇八頁。
- 昭和九年一月十二日、 夕刊、 国立国
- $\widehat{79}$ 昭和九年 一月十日、

- 80 右、 和 九年一月十六日、 昭和九年一月十五日、
 九年一月十六日、朝刊 月十七日、 夕刊
- 81 館所蔵 朝 ŦĬ 国立 国会図
- 同右、 昭和九年一月二十 一旦 夕刊。
- 83 昭和九年八月二十三日、 朝刊。
- 『山形県史』五、 山形県、一九八六年、 八頁。

84

- 85 "読売新聞』昭和八年九月二十六日、 朝刊。
- 86 前掲『郷土舞踊と盆踊』一〇七―一〇八頁
- 87 学校教育と音頭についての研究には、 から敵視されたメロディの教育化―『東京音頭』から 都新聞 昭和九年八月十五日、 朝刊。 前掲 音楽教師
- 89 都新聞 昭和十年七月二日、十三日 刊

国音頭』へ―」がある。

- 90 同右、 昭和十年七月十六日、 朝刊。
- 91 同右、 昭和十年七月十七日、
- 92 同右、 昭和十年七月二十六日、 朝刊。
- 93 同右、 昭和十年八月二日、 朝刊。
- 94 同右、 昭和十年八月三日、 朝刊。
- 96 95 同右、 昭和十年八月十日、 昭和十年八月五日、 朝刊。 朝刊。
- 97 昭和十年八月十八日、 朝刊。
- 98 十年八月二十一日、 朝刊
- 99 昭和十年八月二十五日、二十七日、三十一

日

- 100 『郷土舞踊と盆踊』一〇五頁。
- 『都新聞』 昭和十年八月二十五日、

101

- 八年七月十七日
- 大阪朝日新聞 昭和九年四月十二日 朝 刊

情報科学研究所、平成二十五年度共同研究)の成果付記〕本稿は、「地域活性化と情報活用」(日本大学商学部

Abstract

When the record industry was developing in the early Showa period, a large number of new popular songs started to be made. In this paper, the reason why the "Marunouchi sound" became popular will be explored. The record industry did not invent popular songs for the literary world and educational circles. Similarly, popular songs were ignored by radio broadcasters. The critical point we can learn from the promotion of the "Marunouchi sound" or the "Tokyo sound" was their large economic influence. Each record company promoted its songs in the "cherry tree sound battle" and the sale of popular music increased rapidly across Japan. Record makers cooperated with movie theaters, department stores and newspaper companies to gain publicity for their music. Indeed, it was possible to plan for the local promotion of media event as a part of making hit records. So called "guidance" and the economic meaning of local promotion was also included in the rise of the "Marunouchi sound".